

Zoom Up

燃えるごみを自宅前で収集し負担軽減 戸別収集のモデル地区拡大

市では、皆さんの負担軽減とごみ減量のため、戸別収集の効果を検証しています。2019年から金田・まつかげ台・小野をモデル地区として開始したところ、出されるごみの量が12%減少しました。10月からは、厚木北・厚木南・依知南をモデル地区に加え、さらなる検証を進めます。

ごみは、日々の生活で必ず発生します。市が20年に実施した調査によると、雨や暑い日のごみ出しに負担を感じている人は34%。年代別では30～49歳が40%と高くなっています。市では、皆さんの負担を軽減し、ごみの減量につなげるため、モデル地区を設け自宅前に燃えるごみを出す戸別収集の検証を進めています。

負担軽減とごみ減量のために

モデル地区での検証は、19年に金田・まつかげ台・小野で始まりました。8



燃えるごみは決まった曜日の8時30分までに自宅前へ



ごみ収集車が各戸を巡回し回収

戸別収集の概要

【モデル地区】

金田・まつかげ台・小野（2019年5月～）
厚木北・厚木南・依知南（22年10月～）

【出し方】

- ・燃えるごみのみ指定日に戸別収集
- ・収集日の8時30分までに自宅前へ出す
- ・ごみ袋は透明または半透明の物を使用
- ・出すときはポリバケツや収納ボックス、ネットでカラスやネコなどの対策を

カ月間実施した後のアンケートでは、負担が減ったと感じている人が76%に上りました。さらに、ごみの収集量は戸別収集実施前と比べると、年間で13.8%減るといふ効果も表れています（左下グラフ参照）。

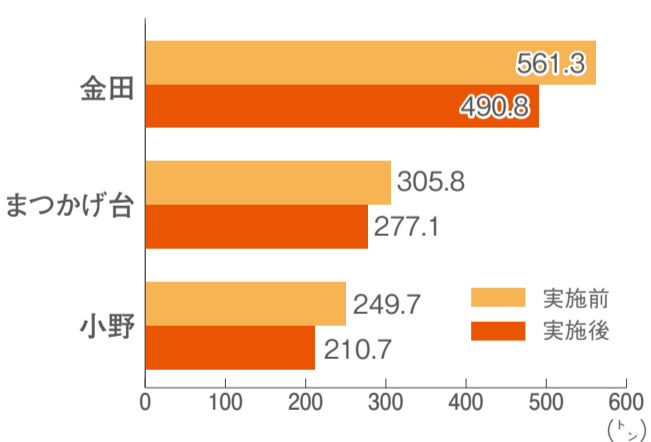
金田に住む谷川佐也子さん（44）は「集積所に行かなくて済むので雨の日は特に負担が減ったし、何かと慌ただしい朝の時間短縮にもなっている。自宅前にごみを出すので、分別にも今まで以上に責任を持つようになった」と話します。

市では、こうした結果を受け、10月

循環型の都市を目指して

市内の家庭から出る燃えるごみの量は、20年前に比べると45%減っています。しかし、より良い環境を未来に引き継ぐためには、さらなる取り組みが必要です。市では、事業者向けの食品廃棄物の資源化事業を始めるなど、ご

戸別収集実施前後の年間収集量の変化



み減量に力を入れています（右欄参照）。市、家庭、事業者みんなで取り組み、ごみを減らし資源として生かす、循環型のまちを目指しましょう。

環境事業課 ☎225-2793



リサイクル施設見学会

生ごみを資源化する施設などを見てください。

環境事業課 ☎225-2793

日時 11月9日 8～17時
場所 (株)Jバイオフードリサイクル横浜工場
 かわさきエコ暮らし未来館
 ※厚木中央公園に集合しバスで移動
内容 生ごみをバイオエネルギーに変える様子や大型太陽光発電所を見学
対象 市内在住の18歳以上25人 **費用** 無料
申込 10月31日までに環境事業課へ。抽選。 ☎



申し込みはこちら▶

参加希望者 相談受け付け 事業者の食品廃棄物を収集し資源化 10月スタート

ごみの焼却を減らしCO₂削減につなげるため、市内事業者の食品廃棄物を市が収集しリサイクルする事業を始めます。参加を希望する事業者は相談してください。

環境事業課 ☎225-2793

【対象】市内に事業所がある事業者または、1年以上市内に住み事業を営む個人（市税の滞納がないこと）

【内容】月～土曜の指定日（年末年始を除く）に収集し、リサイクル施設に運んでバイオエネルギー化

【費用】リサイクル施設での処理経費1キログラム28円（税別）

事業概要や食品廃棄物の量が分かる物を用意し、環境事業課に相談。相談後に、申請書や必要書類を案内。



【事業のポイント】これまで食品廃棄物は事業者が環境センターに持ち込み焼却処分。それを資源化することで、焼却量を減らしCO₂も削減

詳しくは市HPに掲載▶

